

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102206		
法人名	医療法人社団 上野会		
事業所名	グループホーム にれのき荘		
所在地	熊本市北区龍田4丁目12-22		
自己評価作成日	令和2年 9月 1日	評価結果市町村報告日	令和2年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のラジオ体操や歌を継続する事により運動の習慣をつけ身体機能の維持、筋力低下に努めています。 ・先行した介護をせず、自分で出来る事は、声かけや見守りの中、行って頂き、自立に向けた支援に努めています。 ・コロナの影響により、面会制限、外出を控えての生活を送られています。ガラス越しの面会・ご家族と電話での会話、又、施設内で行える、レクリエーション、歌体操等を行い、季節感を感じれるような企画を提案し、毎日の生活が充実したものになる様に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設20年を迎え、地域に根差した事業所で暮らす入居者の穏やかな様子が見えました。今年度は感染症予防の観点から生活面での規制が余儀なくされていますが、そのような中でも、地域住民と挨拶を交わしたり、近隣住民による菜園作り等、自宅での生活を思わせる日常的な関わりが継続されています。日々の生活は見守りを重視し、「出来ること」を大切にしたケアが行われています。家族の面会頻度が低くなりがちな今、職員交替で発行する便りには入居者の日々の笑顔や様子があるままに掲載され、家族に喜ばれています。入居者の出来る力を活かし、俳句等それぞれの楽しみと生活が尊重されたグループホームならではの姿を見ることができました。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員研修時、説明を行い施設の各所に掲示し、又、毎朝の朝礼時に唱和を行い意識の統一に努めている。	職員入職時の「新人研修計画書」には理念についての項目もあり、管理者による研修を行っている。職員意識を統一するため、毎朝の唱和を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で、地域のイベントに参加出来ない状況にあるが、落ち着いたら、消防訓練への参加声かけ、地域交流のイベントを計画、開催を再開したい。	近隣住民との畑での野菜作りや散歩中の近隣住民との触れ合い等、ご近所付き合いが開設以来続いている。今年度は例年のように催事が出来なかったが、日常生活での交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域のふれあいサロン、実習生の受け入れ等を行い、認知症ケアへの理解へ活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、入居者の状況や活動報告を行い、助言等を頂いている。コロナの状況で開催を控えている間も郵送にて状況報告を行い、身体拘束の勉強会等の資料配布を行い、電話連絡等にて意見を伺いサービス向上に努めている。	隔月開催の運営推進会議には、地域住民や入居者家族に加え、入居者代表も参加し、意見交換の場としている。今年度は感染症予防の観点から書面での開催を余儀なくされた回もあったが、参加者と連絡を取り合い、事業所の活動報告を行うとともに意見を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回熊本市からの介護支援員の訪問もコロナにて中断しているが、市からのFAX等にて状況を把握し、ケアのサービスに取り組んでいる。	運営推進会議への参加や介護支援員の訪問、随時の報告・連絡・相談等により協力関係の構築努めている。運営推進会議書面開催時には、事前連絡を取り合ったり、資料を持参し、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回と新人研修時に、勉強会を行っている。身体拘束とは何か、身体拘束しないケアに努め日中は出入口は施錠せず自由に入出りできるようにしている。	運営推進会議開催時に身体拘束廃止委員会を開催しており、地域・行政・入居者家族等へ事業所の状況報告等を行っている。事業所では現在、拘束をしないケアを念頭に行っており、言葉による拘束も職員間で常に注意を払いながらケアに当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会を開催し、全職員の意識向上と虐待を見過ごさないように努めている。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会を開催し、全職員の意識向上を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時は、管理者が利用者、ご家族へ十分説明を行い、不安や疑問点には、分かりやすく丁寧に説明し、納得、安心して頂けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。又、月に1回以上は訪問される機会を作り、現状の説明や、ご家族の現状も会話から聞く機会を作っている。	開設以来面会も多く見られ、月に一度以上、職員と対面する機会が作られている。例年、運営推進会議や家族行事、入居者・家族・職員での日帰り旅行を楽しむ等、家族と関わる機会が作られており、意見を出しやすい関係作りが継続している。	今年度は感染症予防の観点から行事の縮小が余儀なくされ、事業所の工夫が窺えました。面会も難しいとされる中、今の時期であるがゆえの家族の意見にも耳を傾けて頂くことを望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	休憩時間や毎月の勉強会等にて、意見や提案があれば聞くようにしている、普段の表情や態度を把握し、必要に応じて個別に話を聞いている。	管理者は日頃の職員の様子による声掛け等を行い、業務に関してだけでなく、生活面においても意見を出しやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業既定の整備や健康診断の実施にて職員の心身の健康状態の把握に努め、職員個々の努力や実績を把握し向上心を持って楽しく働ける環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルに応じて、外部の研修に参加し、スキルアップの資格取得には積極的に支援している。 施設内勉強会にて全職員のケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や県で開催される定期的な勉強会や研修会に参加し意見交換や情報の共有を行い交流を図っている。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、面談を行い、心身の状態や不安なことなどを傾聴し、安心しに繋げた関係作りに努めている。体験入居も可能。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談を行い、今までの生活状態やこれまでの経緯を聞き、不安や要望等に傾聴を行い安心できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・相談を受けた時点で早急な対応が必要と判断した場合、他の事業者と連絡を取り空室状況えたり、空室状況が分かるホームページ等を紹介する等対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の掃除、食事の配膳、洗濯物たたみ、干し等個々に出来る事をスタッフと一緒に頑張って頂き、役割を持つ事で日々の生活の活力になる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナにて、面会の制限を行っている状況だが、ガラス越しの面会、電話での会話、誕生会、敬老会ではご家族からのお手紙を頂く等、ご家族との絆が途絶えないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、面会・外出をお断りしているが、落ち着いたなら、昔の仕事仲間、近所の仲間の来訪やご家族との外出して頂き、馴染の関係が継続できるように支援していきたい。	従来から入居者と家族、知人等との関係を大切にしていた取組みがなされている。入居後は、庭で過ごす入居者と散歩の近隣住民との関わりも見られる等、新たな交流も日常のものとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のその日の状況、状態を把握し共有を行い、職員が入居者同士の懸け橋となり、トラブルなく作業から他愛のない会話まで1日を楽しく生活できるように支援している。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設は移られた際は、面会に伺ったり、ご家族と連絡を取り合い、相談支援等に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者の方と関りを持ち、本人の希望や思いを発言、行動の中でどのように暮らしていきたいのかを把握するように努めている。ご家族からの情報収集を行っている。	日々生活の関わりの中で思いや意向の把握を行っている。今年度は特に事業所の中で入居者と過ごす時間が増えたこともあり、声掛けのタイミングや方法等の工夫で入居者の新たな力を見出した等の例も聞かれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に面談を行い、入居者ご家族から情報を聞き、入居後も日常的な会話の中から把握に努め、日々のケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの、生活のリズム、精神面や体力の把握に努め、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に3ヵ月毎にモニタリングを実施しサービス担当者会議の開催や個別で面談を行い、本人・ご家族・他職員の意見や要望を取り入れ、一人ひとりに沿った介護計画を作成している。	介護計画の作成は計画作成担当者を主に行っている。日々の入居者の様子を把握しての3ヶ月毎のモニタリング、職員の意見も取入れた計画の見直しを行っている。この2年間、入居者の身体状況も変化しており、日々の様子により短期間での見直しの必要性も感じている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況や言動等の日々の暮らしの状況を個別にケア記録に記載し、全職員で共有し、日々のケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を生かし看護師による健康管理に努めている。継続的な通院、又入院時も、顔なじみの看護師が対応出来、本人、ご家族の安心感にもつながっている。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容や美容員等のボランティアにて化粧やネイルを受けられ、職員以外とかかわりを持つことで良い刺激になり、生き生きした表情も見られていたが、現在コロナの影響にて訪問は行われていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を確認し、継続受診が出来るように支援している。関連医以外は、ご家族の付添いにて定期受診をされている。現在関連医以外は、ご家族に情報を提供し、電話受診に変更になっている病院もある。	入居前のかかりつけ医の受診継続を支援している。関連事業所である協力医での受診は職員付き添いで、その他医療機関での定期受診は家族介助による通院を基本としている。協力医からは週2回の看護師訪問による健康管理がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師2名と兼務の正看護師1名により健康管理に努めている。情報交換すると共に報告・連絡・相談が出来る体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の情報を医療機関に提供し、職員が見舞う中で、早期退院に向け情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の方針、対応をご家族に説明と同意を得ている。その時を迎えた際にも今後の対応について都度話し合いを行い、日頃から医療連携の対策も整えているが、現状では医療機関を選ばれる場合がほとんどである。	入居時に重度化した際の指針・対応について説明し同意を得ている。実際にその時を迎えた際には事業所で出来ることを家族を交え話し合い、入居者にとって最善の生活となるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・救急時のマニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。救急時・緊急時医療確認同意書を作成し、ご家族へ十分な説明後同意を得ている。急変時には迅速な対応が出来るように、努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震訓練・火災避難訓練を年に3回以上行い、昼夜問わず、対応を出来るように訓練を行い、訓練後は、反省会にて職員全員が意見出し会っている。地域住民の方、隣接の法人施設の協力を得ている。	今年度の火災避難訓練は事業所・隣接する法人での実施であるが、例年、近隣住民の協力も得て行っており、実施後は職員間で反省会を行っている。自然災害の心配は少ない地域ではあるが、地震訓練も行っている。	反省会では職員全員で意見を出し合う状況を確認しました。台風の際の設備的な備え、防犯面での「さすまた」の備え等、入居者の安全な生活に対する意識の高さが窺えました。

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの状況に合わせ、入浴介助・排泄介助を行っている。プライドを損なわないような言葉遣いや対応に努め、排泄面での汚染、本人の失敗等他の入居者に気づかれないように配慮している。	入居者一人ひとりに合わせた声掛け、声の大きさ等、排せつや入浴時には特に配慮している。入職間もない職員には研修会や勉強会だけでなく、日頃のケアの場面折々で伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴介助時の服選び、料理にかける調味料等、選択をして頂き、日常生活の中で、自己決定の場面を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、食事時間、入浴日、起床時等、その日の体調も考え、柔軟に対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服選び、外出時の服選び等、職員と一緒にいき。入居者の好みに合わせ楽しんで更衣できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ、配膳の手伝い、お茶くみをして頂いている。職員との会話にて楽しんで作業をして頂ける様に努めている。	献立作り・買い物・食事作り等食事全般に関わることを事業所内で行っている。職員も同じ食事を入居者と共に食すため、家庭同様の雰囲気である。入居者の出来ることを出来る範囲で関わってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎回記入し、職員全員が把握できるようにしている。食事形態も、粗刻み・小刻みにて提供し、水分補給も定期的に行い一日を通して食事量・水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや見守り、介助にて口腔ケアを行っている。毎晩寝る前に義歯を預りポリドントにて消毒・洗浄を行っている。		

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意はあるが、動きたくない、間に合わないと言う入居者の方が増えてきている。食事前、レクレーション前、と時間を決めてトイレの声かけ誘導を行い、トイレで排泄をして頂ける様に努めている	自立に向けた支援を基本とするが、現状は入居者の状況より声掛け等の支援が必要な状況も増えてきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の水分補給・おやつ時に、牛乳、飲むヨーグルトの提供を行い、便秘予防に努めている。一日を通して水分量の確保に努め、ラジオ体操、や軽いリハビリ体操を行い、自然に排泄に近づけるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴日になっているが、入居者の状況に合わせて柔軟に対応している。薄い色付きのバスクリンを使用し、入浴時間もゆっくりと楽しんで過ごして頂ける様に努めている。	一日おきの入浴を基本としている。高齢になり体調の心配が見られる際にも、出来るだけ心地よく過ごして頂けるよう、日程を調整しながら入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの表情や行動を観察し、状況に合わせて自由に自室にて休息できるように声かけや誘導を行っている。就寝前に水分補給とトイレ誘導を行いゆっくり睡眠できるような環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書を作成、職員がいつでも閲覧できるように事務所に掲示してある。薬の変更時も全職員が把握できるように申し送りを行い、飲み忘れ、の見間違いが無いように準備時、与薬時と繰り返し確認を行っている。副作用の説明もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状況や生活歴等を考え、毎日の生活の中で、職員、他入居者の方と一緒に手伝いをして頂いている。ゲームや歌と好みに合わせたレクレーションも行い、気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出が出来ないでいる。ご家族との外出、荘内のイベントでの外出等、控えている。荘内でのイベントを企画に変更をしている。	従来から入居者の意向により個別の外出支援を行っている。近隣の散歩も日常的に行われており、庭での水撒きや畑の手入れ等、外気を感じる機会が多い。今年度はイベント等での外出が難しい状況であるが、日常的な散歩等の生活は継続している。	感染症予防の観点から、従来からの職員との外出、家族との外出支援、事業所での日帰り旅行等、様々な活動の自粛を余儀なくされている状況が聞かれました。この事態が終息した際の再開に期待しています。

グループホームにれのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアーや外出の際のお買い物を、自分で選んでいただき、見守りにて支払いまでして頂いている。現在中止中		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持ってられる方は1名、自由に電話をかけ会話をされている。自ら掛けれる方はいらっしゃらないが、ご家族からの電話をつないだり、希望にて職員が電話を掛け、会話をされる方はいらっしゃる。いつでも対応できる環境を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節の花や行事・イベントの写真を飾り季節感を感じて頂ける様にしている。又写真を見ながら、懐かしむ様子も見られる。室温換気にも気を使い、室温計を見ながら温度調整換気を行い快適に生活できるように努めている。	毎朝職員と入居者で掃除を行う明るい空間では、入居者のくつろいだ姿が見られる。イベントや外出時の写真は日頃の生活そのものの姿が写されている。夏だけでなく、冬期も暖房を利用しながら換気を行い、安全な生活にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファーと長椅子等を設置し、気に入った場所にて、過ごされている。気の合う方もそれぞれおられお互いにコミュニケーションの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族と相談し、仏壇や写真を持ち込んでもらっている。部屋の飾り等もご家族・本人と一緒にいき、くつろげる空間づくりをしている。	入居時には、家族へ使い慣れた物や思い出の生活用品の持込みを依頼している。孫の手作りの品を飾ったり、家族の関わりも多い。寝具や衣類の入れ替え等、家族の協力もよく見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	荘内バリアフリーになっている。手すりも設置されている為、自力歩行にてトイレ、居室に移動される歩行状態が不安な方も増え、見守り声かけにて担転倒防止に努め、自由に自力で移動行えるように努めている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業名 グループホームにれのき荘

作成日 令和2年12月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	コロナ過による面会の制限中により、施設内での生活状態、精神状態等、感染症予防に対する不安があるのでは	ご家族と入居者様の現在の状況を把握して頂き、荘内での生活感染症予防対策への説明を行う。	P1, 毎月の花だよりにて、入居様の荘内での生活を報告。 P2, 職員が個々の入居者様の情報を共有し、来設時に、ご家族様に報告を行い、要望をお訊ねする P3, 感染症予防対策の報告、ご協力をお願いし説明を行う。	R2年4月1日 ～ R3年3月31日
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。